

小中連携教育コーディネーター概論

「研修の目標とその評価方法」

久世 均(岐阜女子大学)

第10講 「研修の目標とその評価方法」

【目的】

研修の設計の考え方において、1960年代に米国の教育工学研究者のロバート・メーガー（Robert F. Mager）は、次の3つの質問をすることで、研修の目標と評価方法を定めることの重要性について考える。

【学習到達目標】

- ロバート・メーガー（Robert F. Mager）の3つの質問について説明できる。
- 研修目標の明確化について具体例を挙げて説明できる。

第10講 「研修の目標とその評価方法」

1. ロバート・メーガー (Robert F. Mager) の3つの質問

■ Where am I going?

(どこへ行くのか?)

■ How do I know when I get there?

(たどりついたかどうかをどうやって知るのか?)

■ How do I get there?

(どうやってそこへ行くのか?)

第10講 「研修の目標とその評価方法」

2. 研修の目標の明確化

- 研修目標を明確に定義するための手段としては、具体的な目標やゴールを示していくこと
- 目標行動が評価される条件を明らかにすること
- 目的地までの道筋（すなわち学習方略）を明確にすること

第10講 「研修の目標とその評価方法」

3. 新たな知識観

- 確かな学力や資質・能力を育成する授業で強調するのは「知識創造モデル」
- 子供たち自身からさらなる追求が生まれるよう学習活動をデザインし、他者との協調活動を通して知識創造させていく「前向きアプローチ」の授業設計

第10講 「研修の目標とその評価方法」

3. 新たな知識観

表10-1 教育課程と教育方法の軸で整理した知識観

	教師中心授業	学習者中心授業
教科の内容を中心に	A : 知識の詰め込み	B : 深い内容理解
資質・能力を中心に	C : スキルの訓練	D : スキルを引き出し深い内容理解

第10講 「研修の目標とその評価方法」

4. 新たな評価

- 「知識習得モデル」から「知識創造モデル」に脱却するためには、学習成果の評価の考え方も変えていく必要がある。
- 「D」型授業である「前向きアプローチ」では、**変容的評価**を提案している。
- 授業に埋め込んだ形で授業中何度かワークシート等に考えを記述させるなどして一人一人の知識創造の変容を追うことで、次の授業計画のヒントを得ることが可能になる。

課題

1. ロバート・メーガー（Robert F. Mager）の3つの質問について説明しなさい。
2. 研修目標の明確化について具体例を挙げて説明しなさい。
3. 「知識習得モデル」と「知識創造モデル」の違いと特徴を説明しなさい。
4. 変容的評価について説明をしなさい。

第10講 「研修の目標とその評価方法」

【目的】

研修の設計の考え方において、1960年代に米国の教育工学研究者のロバート・メーガー（Robert F. Mager）は、次の3つの質問をすることで、研修の目標と評価方法を定めることの重要性について考える。

【学習到達目標】

- ロバート・メーガー（Robert F. Mager）の3つの質問について説明できる。
- 研修目標の明確化について具体例を挙げて説明できる。

小中連携教育コーディネーター概論

「研修の目標とその評価方法」

久世 均(岐阜女子大学)